

イルカと環境問題

八月十日水曜日、一週間の旅行で愛媛県のイルカと一緒に泳ぐことができる施設に行った。

イルカの生態のレクチャーに加え海洋ゴミ問題について話があった。

イルカは好奇心が旺盛でゴミをくわえたり、体にひっかいたりして遊んでしまう。

僕もイルカとふれあった。海に入るとすぐに近づいて、興味をもっているようだった。

イルカが遊んでいる時、そのゴミを誤って食べてしまうと、胃の中で消化されずに残って死んでしまう場合もある。

そのため、飼育員は、毎日イケスに流れてくるゴミを拾い、イルカの口を手を入れ異物が入っていないか確認している。

しかし、胃の中に入ってしまった物は、手が届かずとれなくなってしまう。

近年海洋ゴミ問題は深刻で、二〇五〇年には、

魚より海洋ゴミの量が多くなっていると言われている。

海洋ゴミの多くは街から発生している。

雨が降った際に路上のゴミが川や水路に流れ出し、海に至る。

その半分以上を占めるのがプラスチックゴミだ。

その素材の性質上滞留期間が長く被害も深刻だ。

海洋プラスチックゴミが増え続けると、漁業や観光だけでなく

船舶運航の障害、沿岸中域の環境も悪化してしまう。

今起こっている問題だけでもウミガメや海鳥、鯨などの海洋哺乳動物など

少なくとも七百種ほどに被害をもたらしている。

このうちの九十二%が、プラスチックゴミによる影響だ。

毎年、海に流失するプラスチックゴミのうち

二〜六万トンが日本から発生したものだと言われる。

このようなことが起きないように対策をしなければいけない。

特に大切なのが3Rだ。3Rはリデュース、ゴミになるものを減らす。

リユース、ものを大切に繰り返し使う。リサイクル、ゴミを原材料として再利用する。

この三つの頭文字のRをとった総称だ。

他にも、環境に配慮した製品を選んだり、分別回収の際などの目安となる環境ラベルがある。

そのラベルの中で僕が大切だと感じた四つを紹介したい。

一つ目は、『E』マークでライフサイクル全体を考慮して環境保全に資する商品と認定し表示する。『E』

二つ目は、『PET』ボトルリサイクル推奨マークで使用済みPETボトルリサイクル品につけられるマークだ。『PET』

三つ目は、『ペットボトルマーク』で再生資源として利用することを目的として、

分別して回収するための表示だ。『PET』

四つ目は、『紙製容器包装マーク』で、消費者が使用済みの容器包装を出すときの分別を容易にし、

市町村の分別収集を進めることを目的としてこのマークがつけられている。『PET』

このようなマークを使い、3Rを勧めている。

海洋汚染を止めるために日本や世界は、さまざまな対策をしている。

しかし国だけでは、この問題は止めることができない。

問題に直面しているのは一人ひとりだ。

人が起こした問題は人が解決しなくてはいけない。

僕も海の豊かさを守りたい。



印西市立木刈中学校 一年

木村 暖

絵 front52dx